

11 尼崎市の貴重な自然

(1) 尼崎市の貴重な自然と兵庫県版レッドデータブック

兵庫県版レッドデータブックでは、兵庫県の貴重な自然を保全し、生物多様性を確保することを目的として、その貴重性や要因を評価しており、兵庫県版レッドデータブック 2010 では、維管束植物・蘚苔類・藻類・菌類・植物群落について、2011 では地形・地質・自然景観・生態系について評価されている。本市市域においては、貴重な植物群落として、猪名川公園及び猪名寺廃寺跡のエノキ・ムクノキ群落がCランクに、自然景観として、猪名川自然林がBランクに、重要な生態系として、藻川（猪名川との分流点から合流点まで）がCランクに選定されており、これらは都市化が進んだ本市において、特に貴重な自然となっている。

また、市として14年3月に策定した「自然と文化の森構想」において、猪名川自然林は「地域の魅力資源」のひとつとして位置づけられ、市民グループによる保全や森を楽しむイベントの実施、環境学習の場とすることなどが提唱されており、エノキ・ムクノキの保全活動など、実際にその取り組みが行われている。

なお、猪名川自然林は、治水対策として行われた猪名川河川改修工事（河道のショートカット工事（44年竣工））以前の旧河道堤防に残った河畔林であり、当初は宅地化される予定であったが、公害問題が深刻であった当時、地域住民等による保全運動によって残された経緯がある。現在も旧河道に沿って猪名川の現河道を越えて府県境が入り込んでおり、猪名川自然林はこの地域の歴史を物語る景観のひとつにもなっている（次ページの位置図参照）。

植物群落、自然景観、生態系におけるカテゴリー

Aランク	規模的、質的にすぐれており貴重性の程度が最も高く、全国的価値に相当するもの。
Bランク	Aランクに準ずるもので、地方的価値、都道府県の価値に相当するもの。
Cランク	Bランクに準ずるもので、市町村的価値に相当するもの。
要注目	(植物群落)人間生活との関わりを密接に示すもの、地元の人に愛されているものなど、貴重なものに準ずるものとして保全に配慮すべきもの。 (自然景観)その場所の貴重性だけでなく、今後の人の暮らしと自然環境の関係を考える上で重要とみなされるもの。

自然と文化の森構想・・・市民、市民団体、事業者、専門家、行政等の協働によって、猪名川、藻川周辺地域に残る自然や歴史・文化資源を再発見し、それらを全市的な財産として捉え、守り、活かしながら、市民が誇りに思い、多くの人が憩い、楽しみ、学ぶことのできる地域にするための考え方や進め方を示したもの。

(2) レッドデータブック

レッドデータブックとは、絶滅のおそれのある野生生物などをリストアップして、その現状をまとめた報告書である。元年に（財）日本自然保護協会ほか「わが国における保護上重要な植物種の現状」を、平成3年に環境庁（現環境省）が「日本の絶滅のおそれのある野生生物」として、脊椎動物編および無脊椎動物編を公表した。

その後、環境省では動・植物全分野でのレッドリストの作成作業を完了し、レッドデータブックについては、現在「爬虫類・両生類」「植物（維管束植物）」「植物（維管束植物以外）」「哺乳類」「鳥類」「汽水・淡水魚類」「陸・淡水産貝類」「クモ形類・甲殻類等」「昆虫類」が発行されている。

兵庫県では、平成 7 年に他県にさきがけて、地域版レッドデータブックとして「兵庫の貴重な自然 - 兵庫県版レッドデータブック - 」が公表された。これは野生動植物のほか、植物群落、地形、地質、自然景観をも選定評価の対象としたものであった。その後、選定・評価の見直しが行われ、15年に改訂版が作成された。

さらに、近年、生物多様性の保全に関する関心が高まり、新たな生物情報の蓄積が進んできたことから、平成 21 年 3 月には「生物多様性ひょうご戦略」が策定され、これに基づく重要な柱として、平成 21 年度よりレッドデータブックの改訂が進められており、平成 21 年度は植物及び植物群落について、平成 22 年度には地形・地質・自然景観について改訂が行われるとともに、全国初となる生態系のレッドリストが選定された。

兵庫県版レッドデータブックに登録されている地域

